

いのちの讃歌 市民の集い

ありがとう いのち



いのちがあるからあったかい
いのちがあるからひびきあう
いのち輝くふるさととともに

入場
無料

いのちの讃歌 市民の集い

平成 28 年 11 月 27 日(日) 15:00～17:30 in 国際ホテル松山 本館 3F

次第

- ① 開会式
- ② 表彰式 ■絵画 ■作文 ■学校賞
- ③ いのちの讃歌 作文披露
- ④ いのちとふるさとの讃歌
- ⑤ シンポジウム
- ⑥ メッセージ
- ⑦ 閉会式 市民の集い宣言

主催者挨拶



愛媛銀行 会長
中山 紘治郎

「この世で一番いのちの輝いているところはどこでしょう」と訊かれたら、私は迷うことなく小学校ですよ、と応えます。孫の運動会などに訪問しますと、教室にも校庭にもわきあがるいのちのエネルギーが笑顔になってはじけているのを感じます。

小学校こそ私たちが先生方に託した輝きのいのちのゆりかごでありましょう。校訓、校歌、教育目標とそのグランドデザインには、ともに生き、ともに学ぶ子どもたちの「いのちのふるさとづくり」のいとなみがしっかりと示されています。小学校教育の使命と役割は誠に大きなものがあります。

しかし申すまでもなく、学校も今日、さまざまな教育課題に直面しています。ましてや実社会では、生き生きと笑顔いっぱいな日々を過ごすことが約束されているわけではありません。いのちそのものが何物にもかえがたい絶対的な価値でありながらも、いのちを軽んじる出来事があとを絶ちません。さらにまた生老病死は人生のさだめであり、だれもがいのちがつきるのを迎えないければなりません。老いや死こそよりよく生きるための重要なテーマであります。

私たちはいのちと向き合い、いのちを慈しみ、だれもがいのちを輝かせる社会を確かなものにしていかなければならないと思うのです。

この集いにおいて、教育と介護にかかわる私たちのいとなみを見つめ直し、再構築へ向けた提言を期待致します。

メッセージ



えひめふるさと塾 名誉顧問
加戸 守行

「いのちの讃歌市民の集い」の盛会を心よりお慶び申し上げます。

愛媛県以外の都道府県にはほとんど地理的名称が付けられていますが、愛媛だけは古事記に由来する生命の籠った人的名称です。現職知事の時代に皇居で天皇陛下に県政報告を申し上げる際には必ずそのことに触れて参った私からすれば、今回の「いのちの讃歌」事業は、愛媛の名の付いた団体が執り行うのに最も相応しいものだと感じています。

近年、生命の尊厳を踏みにじる事件報道や動物愛護に無関心な風潮などを見聞するたびに、多くの人々が胸を痛め、何とかしなければとの思いに駆られているはずで、古今和歌集の「生きとし生けるもの、いづれか歌を詠まざりける」ではありませんが、「生きとし生けるもの、いづれか命を慈しまざりける」と呟くのが本当の日本人でありましょう。

歌と講演と討論とによる本日の集いを契機として、愛媛が全国の先頭を切って、人を愛する県名に相応しく命を慈しみ育む先進県になることを、皆様とともに誓い合いたいと思います。

祝 辞



愛媛県知事
中村 時広

「いのちの讃歌市民の集い」が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

株式会社愛媛銀行におかれましては、本県との動物愛護推進連携協定に基づく動物愛護の普及啓発はもとより、地域福祉の向上等に取り組む団体への助成など、社会貢献活動に御尽力を賜り、深く感謝を申し上げます。

御案内のとおり、我が国では急速な少子高齢化や核家族化などの生活環境の変化にともない、地域のつながりの希薄化が進み、児童・高齢者の虐待や、いじめ等による自殺、動物の遺棄といった数多くの社会問題が顕在化しており、今一度「いのち」の大切さを見つめ直す必要があります。

このため、県では、すべての命あるものが安心して暮らせる社会の構築に向け、県民や各市町、関係団体・企業等と連携して、意識啓発や相談窓口の機能強化を図るなど、さまざまな取り組みを進めているところです。

どうか皆様方におかれましては、今回の集いを契機に、お互いを思いやる気持ちを一層大切にされ、「愛顔あふれる愛媛県」の実現に更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本集いの御成功、並びに御参加の皆様方のますますの御健勝、御活躍を祈念いたします。



松山市長
野志 克仁

「いのちの讃歌 市民の集い」が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。また、主催の株式会社愛媛銀行様には、日頃から動物愛護思想の啓発普及に積極的に取り組まれていることに、深く敬意を表します。

近年、いじめでの自殺や子どもの尊い命が失われる痛ましい事件が続いています。また、核家族化で、子どもが家族の死に直面し、生や死について考える機会が少なくなっています。このような中、命の誕生の喜びや生きることの尊さを知り、自分の命も、他の命も大切にし、また、力強く生き抜こうとする「心の教育」が求められています。

松山市では、「一人でも多くの人を笑顔に 幸せ実感都市 まつやま」の実現に向け、子どもたち一人一人の夢や希望を育て、輝く未来を開くための取組を進めています。市民一人一人が豊かな心を育み、人との関わりやきずなを大切にしながら、生きとし生けるもの全ての命を大切に、皆が幸せに生活していける社会と人づくりに努めていきたいと考えています。これからも関係者の皆様の御支援と御協力をいただきますようお願いいたします。

結びに、本会の御成功とお集まりの皆様のお健勝、御活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とします。



東温市長
加藤 章

「いのちの讃歌市民の集い」が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

株式会社愛媛銀行の皆様には、日頃の生命の尊重、友愛、平和を愛する心を育む多様な取り組みに深く敬意を表しますとともに、このたび、本市に対しまして「市民の集い」への参加についてお声がけをいただき、厚くお礼を申し上げます。

さて、依然、国内外を問わずテロや殺人をはじめ、差別、虐待などいのちの尊厳を無視した心の痛むニュースが毎日のように報道されています。

近年、情報通信機器等の急速な発達に伴い、生活は便利になりましたが、一方で地域では大人も子供も人とのかかわりが少なくなったといわれています。このような状況の中で、はたして今の子どもたちは思いやりや助け合いの精神を持った大人に成長できるのだろうかかと危惧を抱かずにはいられません。

本市では未来を担う子どもたちのために、道德の時間や人権教育に加えて地域の皆様のご協力を得ながら自然体験教室、子ども科学環境会議など特色のある学習を通して、いのちの大切さを学ぶ教育を推進していますので、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

結びにあたり、この「市民の集い」を企画・運営していただきました関係者の皆様にお礼を申し上げますとともに、皆様方のますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。



砥部町長
佐川 秀紀

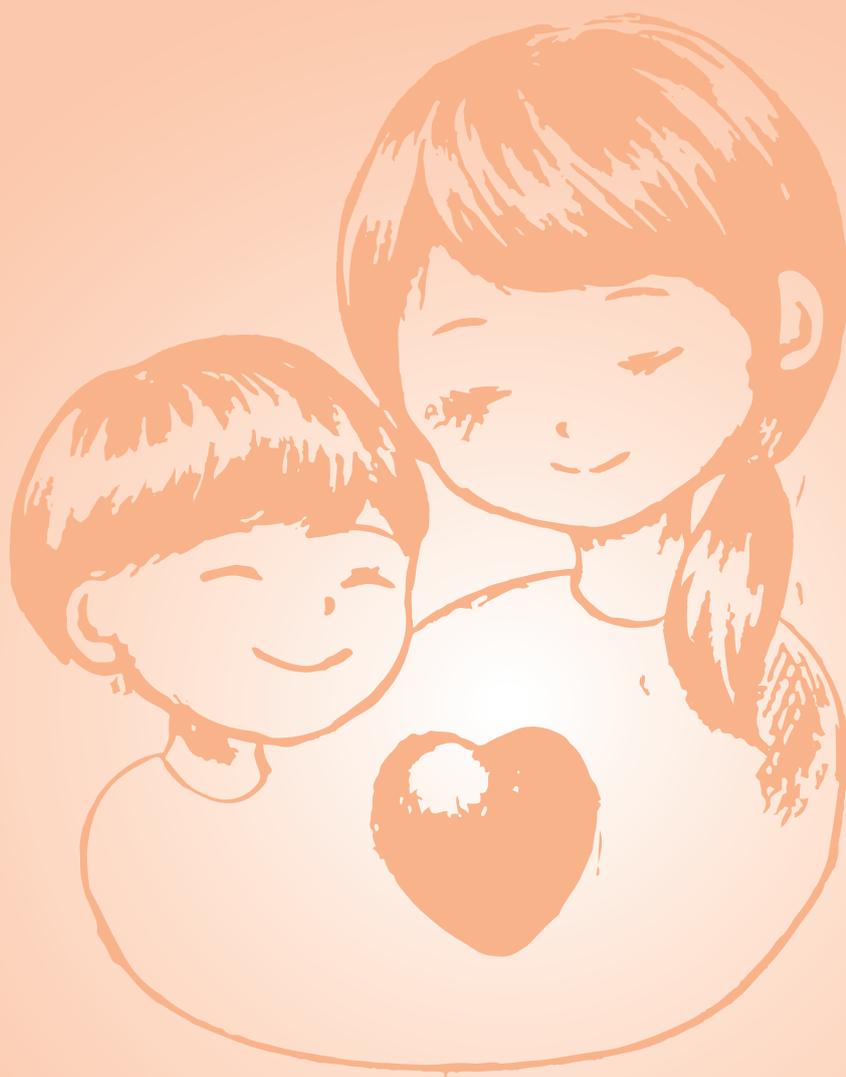
本日は、「いのちの讃歌市民の集い」がこのように盛大に開催されますことに対しお喜び申し上げます。また、株式会社愛媛銀行様の「人と動物が共生する豊かな地域社会の実現」を目指したこれまでの取組に対し敬意を表します。

さて、猫や犬などの小動物はペットとして家庭でよく飼われており、最近では人の心を癒してくれる存在としてブームになっています。愛媛県でも瀬戸内海に浮かぶ青島は猫の島として全国的にも有名で多くの観光客が訪れています。

一方で、わが国では毎年何十万頭もの犬や猫が、行政施設で殺処分されています。命が人間の身勝手な考えにより奪われているのです。砥部の名誉町民である詩人・坂村真民さんは「二度とない人生だから 一匹のこおろぎでも ふみころさないように こころしてゆこう」と訴えています。人々が動物の命を慈しみ互いに共存できる社会は、人間にとっても平和でやさしい社会であり、これからの少子高齢化の時代にはこうした社会が望まれます。

おわりに、本日の集いが、すべての命が輝く社会づくりの礎になることを祈念し祝辞といたします。

入賞作品



特選



松山市立石井東小学校 1年
懸田 大輝

特選



東温市立川上小学校 2年
松浦 美瑚都



東温市立川上小学校 3年
黒澤 奏翔



東温市立東谷小学校 4年
竹内 維吹



松山市立石井東小学校 1年
松林 水流



東温市立南吉井小学校 1年
小倉 杏子



松山市立清水小学校 2年
安達 瑛寿



東温市立川上小学校 2年
武田 桂樹



松山市立清水小学校 3年
山本 惣大



松山市立堀江小学校 3年
桐内 結愛



松山市立清水小学校 4年
高山 莉子



東温市立川上小学校 4年
井上 湧敢



みんなのいのち

東温市立川上小学校5年 藤原 海斗

ぼくは、一度、五才の時に入院した事があります。病氣の名前は、川崎病です。一週間も熱が四十度出ました。あまり覚えてないけど、お母さんに話を聞いて作文を書きます。

入院して毎日、血えきけんさをしました。とてもいたかったのは覚えていません。点てきは、ねている間もずっといました。ねていると鼻血がたくさん出て、まくらがまっ赤になって、ぼくは泣いたそうです。入院中は、お母さんがずっと、そばにいてくれました。お母さんは、ぼくが死んでしまうんじゃないかととても心配したそうです。三週間くらいして、やっと家に帰れました。今でも、一年に一回は、心ぞうのけんさに行っています。それからぼくは、目と齒の病院にも行っています。目は弱しと言って、左目がぼやけて見えにくいのです。だから、ようち園の時からメガネをかけています。し力をあげるために、家にいる時はアイパッチをしてくんれんをしています。見えにくい方の目だけで見るので、ぼくはアイパッチが大きいです。早くおわれればいいなと思います。齒の病院では下がわの齒ならびが悪くて、きょう正をしています。もう三年くらいしているけど、まだまだ時間がかかりそうなので、いやだなと思います。でも、お母さんは、「齒ならびだけは治しておかないとダメだよ。」と言います。ぼくは、むし齒はないのだからといって齒の病院に行かないといけないうかと思っています。

ぼくのまわりにいる人は、みんな元気で病院にあまり行かなくていいのに、何でぼくだけ病氣になったり入院したりしないといけないんだろう。お母さんは、「海斗は幸せだね。病院で治せるんだから。世の中には治らない病氣もあるし、事こでなくなるいのちもあるんだよ。」と言っています。

この「いのち」の作文を書いて、ぼくが今まで病氣になった事や入院した事で、助けてくれた人がたくさんいたんだなと思いました。病院の先生やお父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃん。

ぼくが入院中に、東日本大しん災が起きました。たくさんの方が死んだそうです。「いのち」って、ぼくみたいに入院して病院の先生に助けてもらえる人もいれば、しん災で、あつという間になくなってしまつ「いのち」もある。一人一人に「いのち」はあつて、大切なものなのに、何が起きてなくなつてしまつか分らない。とても、こわいと思いました。

ぼくは今年生です。これから病氣になったり、入院したりするかもしれないけど、おじいちゃんになるまで生きるために「いのち」を大切にしようと思います。



命をつなぐ

松山市立石井東小学校6年 沖野 楓果

ひいおじいちゃんが大切にしていた我が家の愛犬チャコが亡くなって三月で一年、一周忌をしようねと話していた矢先、ひいおじいちゃんが亡くなりました。ちょうどチャコの死から一年だったので、まるでチャコがむかえにきたかのようにでした。

四回もガンとたたかい、最後は病院で亡くなりましたが、その時の顔はとても優しい顔でした。ひいおばあちゃんに会いたい、というも言っていたので、やっと会える、とほっとしたのかもかもしれません。道に迷わず行けるように折り鶴をたくさん折ってひつぎの中に入れました。そして、小さくて重たい箱の中のひいおじいちゃんと、一緒に暮らしていた家に帰りました。

戦争にも行ったので、広島や沖縄などにいれいの旅に一緒に行きました。飛行場でプロペラ機にのった時、特攻で亡くなった人の事を思い出して泣いていました。

「戦争で本当に多くの人が死んだんだよ。死んでもええ人が死んでもうた。結局、誰も幸せにならんかった。」

初七日の後、おばあちゃんが

「ひいおじいちゃん、年金のほとんどを戦争で亡くなった人をまつてる神社に寄付しとったみたい。自分が生き残って帰ってきたことをずっと申し訳ないと思うとったんかもしれどね。」

と言いました。私は、ずっと前に何で戦争に行ったのか、こわくなかったのかと聞いた事があります。

「あの時代はお国のために命をささげるのが当たり前やったんよ。」

今の日本からは考えられません。こわかったとも行きたくなかったとも言いませんでしたが、本当はこわかったし、行きたくもなかったと思います。誰だって、戦争をするために生まれてきたわけではないのです。

法事の時、お坊さんが

「小さいお子さんはこういう場を遠りよされる事がありますが、気になさらず連れてきて下さい。」

と言われました。人が亡くなるとはどついう事なのか。おじいさん、おばあさん、お父さんやお母さんが生き様、死に様をこうやって見せてくれているのだそうです。ご先祖様がずっとつないできてくれた命。命は一つしかないのです。死んでしまつたら、生き返る事などできないのです。

「死ぬより生きる方がしんどいし苦しいんですよ。でも自分の命は自分だけのもんじゃないけん、大事にせないかんんですよ。」

きつと戦争から帰ってきつとつらい思いをかかえながら生きてきたのだと思います。それでも、家族のために歯をくいしばって頑張ったひいおじいちゃん。つないでくれた命、きつと大事にするからね。



命の大切さ

砥部町立砥部小学校5年 中野 春菜

命ってなんだろう。とても大切なことは知っているけれどよく分からない。命とは？お金で買えないもの、一人にひとつしかないもの、心そつが止まると終わるもの。命を形で表すと心そつのことだと私は思った。

「いのちのおはなし」という本を読んだことがある。この本を書いた日野原重明先生は心そつは命を動かすためのモーターで、命そのものではなく、命とはこれから生きていく時間のことだと教えてくれている。心そつが止まったら死んでしまい、つかえる時間もなくなるのだからたしかに命は時間のことかもしれない。

私は自分のこれから生きていく時間のことを考えてみた。中学生になって、高校生になって、おしゃやかな大人になって、お酒も飲んでみたい。楽しみが多すぎて困ってしまふ。

私は時間は誰にでも平等にあり、誰にでも楽しいこれから生きていく時間があると思う。

祖母にもあるのかな？私の祖母は認知症になり施設で生活をしている。今では、自分の身の回りの事が出来ない。分からない事も多くなった。会いに行っても私の名前を忘れてしまっていてさみしい。でも、となりに座ると手をぎゅっつとにぎってくれたり、よく来たねと言って頭をなでてくれる。手をにぎる力はすごく強くてびびりする。おみ

やげにお菓子を持って行くと、とても喜んでくれて、おいしいそうに食べる。食べるのが早くてびびくりする。この時の祖母はとても楽しそうで見ている私もうれしい気持ちになる。祖母の手はあたたかい。心そつというモーターが働いていて命が動いている証拠だ。そして、祖母にも、これから生きていく時間があり私と同じだ。

家族にこれから生きていく時間についてインタビュウをしてみた。父にも母にも兄にも祖父にも、それぞれに夢があり、とても楽しみにしているこれからがあった。私と同じだ。心そつというモーターを動かせ命が動いている。これから生きていく時間があり、そしてその時間を大切だと思っている。私も同じ。だから時間が止まってしまったらと考えると悲しくなる。止まったら楽しみが終わるのだから私の時間もみんなの時間も止まらず永遠に続けばいいのにとと思う。でも、命を動かす心そつはモーターなので故障したり、使い続けたら古くなって疲れて止まってしまふだろう。それなら、時間を楽しく使わないうちもつたいない。

私も家族も他の人達も、これから生きていく時間の使い方は違うけれど、心そつを動かせ命を動かしていることは同じだからどう使うかは自分だけだ。それなら楽しく使いきらないうちもつたいない。私はこの大切な時間、命を誰よりも上手に使いたいと思う。



ぼくとザリガニ

砥部町立砥部小学校5年 林 優

一年前の夏、ぼくのおばあちゃんのごきょうの三重県に行きました。おばあちゃんが幼いころ、近くの小川でザリガニをとっていたという話を聞いていました。ぼくは、三重県に行ったらザリガニつりをすると決めていました。おばあちゃんの言うていた小川に行ってみると、今までに見たことのないくらいの数のザリガニがいました。ぼくは、とてもうれしくなりました。つりざおをたらすたびに、たくさんザリガニがつかれました。そのザリガニたちを全て、ぼくの家がある愛媛県まで持って帰ろうとしました。

次の日、ザリガニを入れてある入れ物を見たら、全部のザリガニが死んでいました。ショックを受けただぼくを見て、近くのおじさんがザリガニをくれました。今度は死なせてはいけないと思い、大切に愛媛県まで持って帰りました。育てているうちに、ザリガニがたまごをもっているのに気が付きました。一度、たくさんザリガニを死なせてしまったので、このたまごを必ずふ化させようと思いました。何匹かが生き残って、成長してくれました。寒い冬をこして、あたたかい春になり、ザリガニたちは、だっ皮をくり返し、日に日に大人のザリガニへと近づいていました。今年の六月ごろ、ぼくがザリガニの水そつを洗い、水をかえてあげました。一週間たったころ、「外に出て来て、ザリガニを見て。」と母に言われたので、ぼくはだっ皮している姿が見れ

るのかと、わくわくしながらザリガニの水そつを見ました。そしたら、残った結果がぼくをまっていた。水そつの水をかえた時、いつもより少ない水にまっていたので、熱すぎて死んでしまったようでした。

これらの出来事により、ぼくは命のはかなさを思い知りました。ぼくの勝手で、他の土地から連れて帰ってくる前にも多くのザリガニの命をなくしてしまったり、ぼくの不注意により、赤ちゃんの時から成長を見ていたザリガニも死なせてしまいました。一しゅんで消えてしまう命は、自分たちがせき任をもって、生き物を飼わないといけないと学びました。そして、このザリガニが教えてくれたことを無駄にしないように、これからも生き物を飼う時は、思いやりをもって、その生き物に対して勉強して育てていこうと思います。



愛犬の死を通じて思ったこと

砥部町立砥部小学校6年 高田 萌々夏

私の家には、家族がかわいがっていた愛犬の「ちび」がいました。ヨークシャテリアという犬種の、ちつちやくてかわいい犬でした。ちびは三年前の一月七日、天国へと旅立ちました。

ちびとはよく散歩に行ったり、冬にはストーブの前に座りこんで話をしたりしました。家族が出かけて私一人で留守番をしている時も、ちびと一緒にいると平気でした。また、ちびもさびしがり屋で、部屋でひとりぼっちになると「フーン」と鳴くので、なるべくいつもそばにいるようにしました。

ちびはミントの葉が好きで、散歩に行くとき立ち止まっておいをかいでいました。でも前の年の秋頃から急に片足が悪くなり、きちんと歩くことができなくなりました。はじめは「すぐに治るだろう」と思っていました。がしばらくしてもよくなりず、散歩もできなくなっていました。私はちびのためにミントの葉をつんできて、顔の前に差し出しました。何とか鼻を近づけておいをかこうとする姿は弱々しく、私はとても悲しくなりました。

犬は人間よりも早く年を取ります。我が家のちびは、生まれてから十五年になっていました。人間でいうと七十五歳くらいだそうですね。ちびは食欲も減り、冬を迎えた頃には体もやせ細っていました。それでもだっこをするこ

ほんのり温かく、私は何だか幸せな気分になりました。それから、ちびがふるえていると必ずだっこをしました。ちびの体温を感じることで、私も安心できたからです。

私は日に日に老いていくちびを見ながら、「大丈夫、大丈夫」と思うようになっていました。そして、また一緒に散歩に行きたいと心から願いましたが、その思いはかき消せませんでした。最後は家族にみとられつつ、リビングでそつと息を引き取りました。眠っているようにも見えましたが、だきあげてみると冷たかったです。

ちびを埋葬し、私は家に戻ってようやくちびの死を実感しました。いつもいた場所にちびの姿がなく、もうだっこすることもないと分かったからです。その夜、私はちびの夢を見ました。一緒に楽しく遊んでいるのに、なぜかちびが消えてしまうという夢です。飼い犬といっても、私にとっては大事な家族です。この時私は、身近なものの死に始めて直面し、本当に悲しいと思いました。いつもそばにいたのが当たり前だと思っていたので、死ぬなんて信じられませんでした。

私は愛犬の死を通じて、家族が元気で過ごせることの幸せをつくづく感じました。そして、一緒に食事をしたり、散歩をしたりといった何でもない日常こそが宝物だと思いました。人も動物もふたつとない命です。私はすべての命に感謝しながら、一日一日を大切に生きていきたいです。



いのち

砥部町立砥部小学校6年 土井 隼人

ぼくの、ひいおばあちゃんが一年前に九十六さいでなくなりました。

なくなる二日前、元気にデイサービスの所にショートステイでおとまりをしに出かけて行き、帰ってくる日の早朝に連絡が来ました。ぼくたちは、ひいばあちゃんと一緒にずっと住んでいて病気で片足をうしなっても元気に毎日を過ごしていたすがたを見てきたので、本当に死と言つのがこんなにもあつけなくるのかなあつて不思議な気持ちでした。

家に帰ってきたひいばあちゃんを見て、ただねむっているだけの様に見えず起きてぼくたちの名前をよんだり「あはは」って笑うんじゃないかと思つてしまう感じでした。

ぼくははじめて自分の近くの人が死ぬというのをけいけんしました。頭の中では、「人は死ぬ」と知つていても実さいには見た事がなく遠い事の様を考えていたのが事実です。病気や事故でなくなるだけではない事を知りました。

おそつ式が終わつて、一週間、一カ月がたつても、まだひいばあちゃんが死んでしまつているじつかんが持てず、「デイサービスに遊びに行つているのかなあ」とふと思つて写真を見て、「あつ、しんだんよね」とせびじくくなります。

腕ずもうすると、めっちゃ強かつたひいばあちゃん。ひいまご三人の男のぼくたちがまけてしまうほど最強なひいばあちゃん。ぼくたちをかわいがつてくれたひいばあちゃん。大好き。

そんなある日、ぼくのおばさんに赤ちゃんができました。いろいろ大変な事があつたおばさんも、「早く子供がほしい」とずつと言つていたのですごくよろこんでいました。ひいばあちゃんが見守つてくれたかなあつて思いました。人がなくなつても、また次々に新しい命はたん生してくる事がすこいなあつて思います。ぼくも戦争を経験して九十六さいまで生きたひいばあちゃんぐらい元気に百さい目指しどんなつらい事がおきたりしても乗りこえられる強い心を持ち、最近では、自分で自分の命を終わらせたりする人が多いのでそんな弱い人にはならない様に楽しくこの命が続くかぎり過ごしていききたいと思つています。

「いのちの讃歌 市民の集い」 絵画・作文入賞者名簿

絵画の部

賞	氏名	学年	学校名
特選	懸田 大輝	1	松山市立石井東小学校
特選	松浦美瑚都	2	東温市立川上小学校
特選	黒澤 奏翔	3	東温市立川上小学校
特選	竹内 維吹	4	東温市立東谷小学校
優秀	松林 氷流	1	松山市立石井東小学校
優秀	小倉 杏子	1	東温市立南吉井小学校
優秀	安達 瑛寿	2	松山市立清水小学校
優秀	武田 桂樹	2	東温市立川上小学校
優秀	山本 惣大	3	松山市立清水小学校
優秀	桐内 結愛	3	松山市立堀江小学校
優秀	高山 莉子	4	松山市立清水小学校
優秀	井上 湧敢	4	東温市立川上小学校

(特選 -4 点、優秀 -8 点、佳作 -17 点)

作文の部

賞	氏名	学年	学校名
特選	藤原 海斗	5	東温市立川上小学校
特選	沖野 楓果	6	松山市立石井東小学校
優秀	中野 春菜	5	砥部町立砥部小学校
優秀	林 優	5	砥部町立砥部小学校
優秀	高田萌々夏	6	砥部町立砥部小学校
優秀	土井 隼人	6	砥部町立砥部小学校

(特選 -2 点、優秀 -4 点、佳作 -12 点)

「いのちの讃歌 市民の集い」 学校賞受賞校

地区	学校名
松山市	松山市立清水小学校
	松山市立浮穴小学校
	松山市立石井東小学校
東温市	東温市立南吉井小学校
	東温市立川上小学校
	東温市立西谷小学校
砥部町	砥部町立宮内小学校
	砥部町立砥部小学校
計	8 校

いのちの讃歌

市民の集い



ひめぎんは

平成二十七年九月

おかげさまで

創業百周年をむかえました

ひめぎんは これまで

仏教に由来する

思いやり助け合いの

無尽の精神を大切に

皆様の笑顔とともに

あゆんでまいりました

市民の集いで

いのちをいつくしむ

思いをたばね

いのちをはぐくむ

そのぬくもりに共感し

老若男女 だれもが

いのちあることの喜びを

わかち 伝えていきたい

と願っています

シンポジウム

●テーマ 「いのち輝く社会づくり」

〈基調講演〉

松山市立潮見小学校校長

齋藤照夫「いのちに学ぶ道徳教育」

〈パネルディスカッション〉

コーディネーター

青野勝廣（元松山大学学長、元松山市社会福祉協議会会長）

パネリスト

齋藤照夫（松山市立潮見小学校校長）

峯本陽子（砥部町立砥部小学校校長）

中矢暁美（託老所あんき代表）

仙波直也（東温市社会福祉協議会生活支援課長）

共催

(福)愛媛県社会福祉協議会・(公財)愛媛県教育会・えひめふるさと塾

協賛

愛媛パッケージ(株)・オオノ開発(株)・掛川建設(株)・興栄海運(株)・三徳電機(株)・
(株)清水屋・(株)鶴居商店・ベストケア(株)・星企画(株)・松山海運(株)・(株)みずほ工業・
三ツ浜汽船(株)・水口酒造(株)

後援

愛媛県・愛媛県教育委員会・愛媛県共同募金会・愛媛県獣医師会・松山市・松山市教育委員会・
東温市・東温市教育委員会・砥部町・砥部町教育委員会・愛媛大学・松山大学・聖カタリナ大学・
松山東雲女子大学・人間環境大学・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・
FM愛媛・愛媛CATV・愛媛新聞社・朝日新聞松山総局・読売新聞松山支局・毎日新聞松山支局・
産経新聞松山支局・日本経済新聞社松山支局

最初に相談される銀行を目指して



金融機関コード:0576

〒790-8580 愛媛県松山市勝山町2丁目1番地
TEL089-933-1111(代表) FAX089-933-1285
<http://www.himegin.co.jp/>